

鳥取県知事 平井伸治 様

要 望 書

済生会境港総合病院における医師確保について

鳥取県済生会境港総合病院は地元住民の熱望に応えて、鳥取県からの済生会への強い働きかけにより、境港市内唯一の公的病院として昭和36年に開設されて以来、境港市はもとより、米子市北部や松江市東部をも含む中海圏域の中核病院として重要な役割を果たし、これからも、その役割が低下することはありません。

しかしながら近年に至り、全国的な医師の偏在等による地域や診療科ごとの医療格差が広がる中、済生会境港総合病院においても医師が年々減少し、総合病院としての機能が削がれつつあるとともに、一刻を争う救急患者の受け入れも困難になっている現状は、この圏域で生活する住民にとって全く想定外のことであり、高齢者を中心として、適切な地域医療体制の確保についての不安は募るばかりであります。

さらに、医業収益の減少から病院経営にも重大な影響が現れていることから、病院の存続についての懸念も高まるとともに、市民の暮らしとこれからの市の将来像に、暗澹たる影を落とすこととなっています。

医師不足の現状を打開する済生会境港総合病院独自の取り組みにも限界があり、鳥取県におかれてもこれまでご努力いただいていることは充分承知していますが、地域住民の思いを受け止め、済生会境港総合病院の医師確保について、改めて鳥取県の特段のご理解と一層のご支援をお願いする次第であります。

平成20年2月14日

境港市自治連合会 会長 永井 忠志
境港市議会 議長 渡辺 明彦